小児看護学

構築の考え方とねらい

　小児看護の対象は、新生児期から青年期までの幅広い年齢にある子どもと、その家族や地域社会である。そしてその対象となる子どもと家族を取り巻く社会は、少子化や核家族化が進むなど年々大きく変化している。そのような社会の中で、子どもが一人の人間として成長・発達し、次世代を担う人間になることは、全人類の願いであると言える。
　そのような観点から小児看護では、子どもを健やかに生きる権利を持った一人の人間として捉え、その子どもが、その子らしく健やかに成長・発達すること支援することを目的としている。その目的を果たすためには、小児各期に応じた成長・発達段階を正しく理解し、子どもの疾病による健康障がいや、様々な状況下に置かれた子どもと家族の理解が必要であり、その知識を基に健康のレベルに応じた看護を実践する能力が必要とされる。
　このような考え方に基づき「小児看護学」は、子どもの特徴を捉え、小児看護の対象が置かれている状況を理解し、多様な環境下でも健やかに成長・発達できるための看護を学ぶことを目的とし、以下の6科目の構成とする。

①子ども看護学概論
②小児看護学対象論【疾患】
③小児看護学対象論【看護】
④小児看護と看護技術【状況に応じた看護】
⑤小児看護と看護技術【看護技術】
⑥小児看護学実習

　少子化の影響もあり、現代の学生は小児と関わることが少ない傾向にある。そのため、学生がこれまでの経験を基に子どもを理解することが難しいと思われる。よって、子どもの日常生活の様子を観察することや、子どもの特徴について調べ学習を行いグループワークしながら、学生が子どもに興味をもって主体的に学習できるような授業を組み立てる。